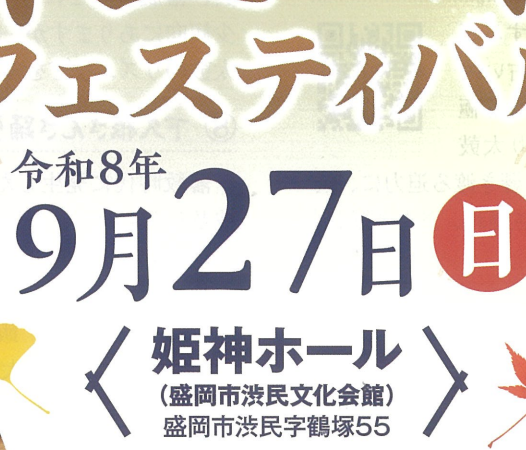




盛岡市・玉山村
合併20周年記念

令和8年度 第1回

もりおか

郷土芸能

フェスティバル

令和8年

9月27日 日

〈 姫神ホール 〉

(盛岡市市民文化会館)
盛岡市市民字鶴塚55

開場 9:30

開演 10:00 (終了予定16:00
途中昼休憩あり)

入場料 1,000円 (高校生以下) 無料

前売券
販売所 ※前売券は事務局及び市内プレイガイドにて、開催日の1か月前から発売予定
盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会事務局(盛岡市教育委員会事務局歴史文化課内)、
姫神ホール、プラザおでって、いわて生協(市内6店舗(向中野、高松、仙北、山岸、松園、青
山)、ペルファ牧野林(滝沢市)、コープ花巻あうる(花巻市)、ペルファ八幡平(八幡平市)、マリ
ンコープDORA(宮古市))

お問い合わせ
盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会事務局
(盛岡市教育委員会事務局歴史文化課内)
〒020-8532 岩手県盛岡市津志田14地割37番地2
TEL:019-639-9067 (FAX:019-639-9047)
E-mail:edu.bunka@city.morioka.iwate.jp



- ◆主催/盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会
- ◆共催/盛岡市、盛岡市教育委員会
- ◆助成/令和8年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)
- ◆後援/(一社)岩手県文化財愛護協会、(公財)盛岡市文化振興事業団、(公財)盛岡観光コンベンション協会

出演団体
(10団体予定、順不同)

- 【神 楽】見前神楽保存会
巻堀神楽伝承会
- 【田植踊り】上妻妻田植踊保存会
- 【獅子踊り】山岸獅子踊保存会
- 【剣 舞】上鹿妻念仏剣舞保存会
- 【さんさ踊り】山岸さんさ踊り保存会
庄ヶ畑郷土芸能振興会
三本柳さんさ踊り保存会
下久根さんさ踊り保存会
- 【古 武 道】南部藩古武道保存会

※出演団体及び出演団体数は変更になる場合があります。

出演団体の紹介・出演順

開 会 式

① 巻堀神楽伝承会（盛岡市巻堀）

巻堀神楽は、巻堀神社に伝わる神楽で、盛岡大清水多賀の社風（みやぶり）神楽を伝授されて興ったもので、県下でも数少ない多賀神楽の系統です。「通り神楽」は御神輿が通る前に道を清めるために躍られた舞です。「笹の舞」は七代の舞の中にあり多賀神楽の基本の舞です。「二柱の舞」は神語「古事記」にまつわるもので、日本の国を造ったといわれるイザナギ、イザナミの命（みこと）夫婦の舞です。

現在は伝承会の他、巻堀小・中学校、PTA、地域の皆さんの協力で伝承活動を行っています。



② 山岸さんさ踊り保存会（盛岡市山岸）

私たち「山岸さんさ踊り保存会」が伝承する踊りは、藩政時代（約400年前）から伝わる古い所作を残す踊りで、軽快にして変化に富みつつも極めて格調が高く、さらに他の踊り組の小振り太鼓と相違し、尺八寸（約54cm程度）の太鼓から響き渡る迫力に、昔、お国入りの藩主も長旅の疲れを忘れ、「さあさ踊れ、さあさ踊れ」と囃されたものだと言いつづけています。



③ 南部藩古武道保存会（盛岡市夕顔瀬町）

盛岡藩には多くの武術が伝わっていましたが、現在まで伝承されているのは諸賞流和術と無辺流棒術のみです。諸賞流は激しい技を特徴とした柔術であり「御留流」と呼ばれました。無辺流は棒術のみならず小太刀、長刀など多様な技が伝えられています。貴重な伝統を後世に伝えるべく毎週日曜、橋市道場で門人一同稽古に励んでいます。



④ 山岸獅子踊保存会（盛岡市山岸）

建久2年（1191）、南部家の祖、光行公が甲斐国から陸奥国へ移住になったとき、連れてきた舞師が残した流儀であるといわれています。中踊の際には、牡鹿が肩から下げた締太鼓を打ちながら、あちらこちらに迷い踊る愛らしい牝鹿を囲んで踊る姿「めじしぐるい」は、まさしく妻を恋う鹿の仕草で、団欒の楽しさを表現しています。



昼 休 憩

⑤ 上鹿妻田植踊保存会（盛岡市上鹿妻）

子供たちが三番叟を一生懸命練習しました。皆がんばって踊りますので、ご注目ください。



⑥ 庄ヶ畑郷土芸能振興会（盛岡市上米内）

庄ヶ畑さんさ踊りは、古来からの輪踊りを現在も伝承しております。踊りの最初は「庄ヶ畑さんさ踊り」からと決まっており、必ず「竹の子舞」を入れるのが特徴です。最後は「礼踊り」で終わります。



活動状況は、盛岡夏祭り競演会、松園夏祭り、桜台夏祭り、庄ヶ畑懸賞付盆踊大会、小野松観音例大祭での奉納など行っています。また、月1回盛岡つなぎ温泉のホテル紫苑でも披露しております。

⑦ 上鹿妻念仏剣舞保存会（盛岡市上鹿妻）

剣舞はお盆を中心に菩提寺である大松院への奉納や会員が亡くなった時などに行われてきましたが、近年は郷土芸能フェスティバルや地区内の祭典、落成式などにも出演しています。会員数が減少傾向にありますが、練習会は毎年3日間以上を開催し、踊りや太鼓のリズムなどを確かめ継承に努めています。



⑧ 下久根さんさ踊り保存会（盛岡市下飯岡）

藩政時代に発生したさんさ踊りが下飯岡の地に波及したもので、百数十年の歴史を伝えています。

現組織は昭和62年（1987）に盛岡市無形民俗文化財の指定を受け、地元町内会、神社祭典等でのさんさ踊り披露、飯岡小学校児童への伝承を行い、5・6年生が運動会で踊り・太鼓を披露しています。



本日はお盆に行われるさんさ踊り（輪踊り）の様子を、続いて庭元へのさんさ踊り披露の様子をご覧ください。

⑨ 見前神楽保存会（盛岡市西見前）

見前神楽の成立年代は不明ですが、秋田の尾去沢から来た修験者によって伝わったといわれています。藪川神楽には文政3年（1820）見前神楽から伝わったとの記録があります。



明治17年（1884）に起きた盛岡西南大火により活動が難しくなった神明神楽の手伝いで盛岡八幡宮の奉納に参加するようになり、神明神楽の活動休止後は当神楽が奉納しております。しかし、この時何の演目を、どの道具を継承したのか、また、誰に教わったのかの記録が残っていないのは残念です。

⑩ 三本柳さんさ踊り保存会（盛岡市三本柳）

三本柳さんさ踊りは文化文政の頃、盛岡藩11代藩主 南部利敬公から伝承奨励の巻物を授かり、主に盆の先祖供養に踊り伝承されてきました。江戸時代から近郷近在に指導した歴史があります。



衣装は蓮華の花を付けた妻折笠に浴衣、手甲、前掛け、脚絆、わらじ、五色帯の巡礼姿を基にしており、低く沈み込んだ体勢からの跳躍が特徴です。